

専門委員会の検討内容に対する地区部会委員の意見

資料3

東青・下北地区部会

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)	1学年当たりの適正な学級数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭の経済状況が苦しい中で、学校選択の幅が非常に少ない。経済的に苦しい状況の中で、どうしても外に出ざるを得ない子どもたちを救えるようなグランドデザインであるべき。 ・ 下北地区では、地域で活躍するリーダーを育てることが必要である。その時に何が足りないかと考えると、地域に腰を据えて教育する人材が足りない。先生になるための、大学受験に必要な科目を指導する教員を確保するには6学級の規模が必要である。
	適正な学校規模を実現するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校においても統廃合が問題になっている。小中学校の統廃合がやむを得ない状況を考えて、高校の再編成も必要な事だと考える。やはり、子どもたちが学びやすい環境を作ってあげるのが私たちの使命である。 ・ 都市部から離れた所では、通学などいろいろな経費がかかる。そういう部分を補うものとして、地域の高等学校があり、非常に助かっている。もしこれを無くす場合、寄宿舎を作るなどの郡部の生徒を救うような方法で、生徒の希望を叶えるようなシステムを作らなければ無理が生じるだろう。
2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)	学科・コース等の今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ いかにして高校を卒業して地元で仕事についてもらうかという考えを推し進めるべきであり、そういうことに対応できる学科やコースを設定すべき。 ・ 郡部の高校こそ学科に特色を持たせるべきである。地域の高校こそ、その地域にあった学科、地域の産業構造、就業構造にあった特色ある学科で構成すべきである。 ・ 1.5次、2次産業に繋がる特色ある学科を地域に開設して、市部の生徒を呼び込むことにより、郡部の高校の存続にも繋がるのではないかと。 ・ 下北地区は、原子力や海洋研究に関する施設があるという特色がある地域なので、そういう方面に働く人材が求められ、それに応えるような教育ができないかと。 ・ 確かに地区の学校に専門的な特色を出すことは大変良いと思うが、生徒の現状を考えると、現実的には地域の生徒全員が、例えば水産業や食品加工業に携わるわけではないので、むしろ、希望がある生徒は八戸水産高校でも行けるようにしてあげるべき。

西北・中南地区部会

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>1学年当たりの適正な学級数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校でも小規模の学校では免許外の教員が入ってやらざるを得ないし、部活動もうまくいかない。地域によっては2校一緒ということもあるが、距離的には難しい。高校での適切な授業、適切な部活動ということになると、最低6学級は必要。ただ、親の経済的な面から考えると、どこかに高校を集中させるのは難しいとも考える。 ・ 今までどおりの市部、郡部とは別の範囲の設定の仕方をして、そこから適正な高校の数や学級数の検討を始める必要がある。市町村合併もあるので、従前の概念ではなく現状にあったエリアの考え方も必要である。 ・ 青森県のどの地区も一律ではなく、地域には地域の特色があり、事情のある地域もある。地区によっては、学校がなくなると通える高校がなくなるという中学校も出てくる。そういうところは最低限確保していくを考えなければならないし、西北と中南で事情が違ってくるので、実態を踏まえて中学生の将来の教育や高校の体制を考えていく必要がある。
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちは普通科に入りたいが、弘前市内には中間のレベルの普通科がない。工業高校や実業高校にも普通科があればよい。

上北・三八地区部会

検討課題	具体的な検討項目	地区部会委員からの関連意見
<p>1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方 (第1専門委員会)</p>	<p>1学年当たりの適正な学級数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級数は一律ではなく地域事情を十分考慮するべきである。上北の地域事情として、範囲が広い割に交通手段が十分行き届いて居ると思えない状況がある。一律に学級数で区切ることによって地域に現在ある高校がなくなった場合の子どもたちの通学の便を考えると、地域事情を考慮しながら柔軟に必要な数を考えていくことが必要。 ・ 多様な指導体制が求められる中で、少子化にあっても学校再編はクラス減だけではなく、より質の高い教育を目指してもらいたい。市部にあっては1学級35人で6学級規模くらい、郡部にあっては1学級30人で4学級規模くらいが望ましいと考える。特に郡部の学校は、ややもすれば学習意欲の乏しい生徒の受け皿的な側面もある。多様な進路面も考えると、ぎりぎりではない教員数の確保が必要。 ・ 教員数の確保となると、やはり生徒数と関連する。教科の先生がたくさん揃っていないと、いろいろな生徒が入学してきて、大学受験しますと言ったときに、その教科の専門家がいないと受験指導は難しい。 ・ 進学校と言われるところはやはり6～7学級を維持して欲しい。地域を担う人材を育てていくという大きな役割がある。 ・ 学級数については、市部と町村部の差というか、地域の事情をよく考えてもらいたい。学級数が少ないと経済的な面でも負担がかかるという事実もある。
	<p>適正な学校規模を実現するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営から言っても、生徒数が減るのに見合う分の先生数を減らさなければならぬというのは良く理解できる。地域の生徒が減ると学級数が減るというのは合理的だが、専門の先生がいらない場合、先生が兼任して学校を回ればよいのではないか。校舎化という話もあるが、生徒が移動して授業を受けるより、先生が回った方がよい。
<p>2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方 (第2専門委員会)</p>	<p>学科・コース等の今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八戸水産高校が近くにあるが、細かい学科は必要ないと思う。生徒も企業も求めている。学校で覚えた事をあてにして採用しているわけではないので、学科を見直し再編して絞った方がよい。水産高校の生徒でも、行きたくて行っているのではないというミスマッチが存在する。